

宇治交配

花ぐるま

耐寒性に優れ、端境期出荷に最適な晩生種！

特 性

- ① 生育旺盛で耐寒性に優れた冬～春どり晩生種で、端境期狙いに最適です。
- ② 色が濃緑で諸病（菌核病・ウイルス病）に強い品種です。
- ③ 花蕾・花梗ともにボリューム感があり、品質は最高です。
- ④ 一般平坦地では9月中旬より播種可能で、約110日で主枝・第一側枝が収穫初めとなりますが、その後20～30日目に強健な分枝が数多く出て収穫最盛期となります。



栽培のポイント！

① 播種準備

畑地・水田を問わず完熟堆肥を投入し、地力を高めることが大切です。品質のよい花蕾を長期間収穫するための基本となります。『色あせ』を防ぐための施肥の基本は**肥効を持続させることです**。元肥としては窒素で10～15kg/10a程度がよく、緩効性肥料を主体として、使用することをお勧めします。

② 播種・間引き

畝幅は2条植えの場合130～140cm、1条植えで80cmとし、9月下旬までの播種で、株間30～35cm、それ以降の播種で25～30cmで一カ所に5～6粒の点播とします。間引きの方法は本葉2～3枚期に一カ所3本程度残し、本葉5～6枚時に1本仕立てとします。又、移植栽培の場合は、直播き

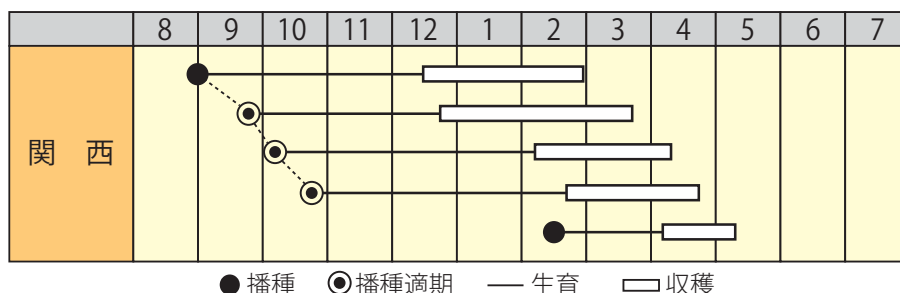
栽培の7～10日ほど早くまき、若苗定植を心がけ、定植後の活着を良くしてやるのが大切です。

③ 収穫までの管理

発芽直後は特にアブラムシ・キスジノミハムシ等の食害には十分注意し、もし発生の兆候が見られたら直ちに薬剤散布による、防除をしてください。前述のように、はなな栽培においては「肥効の持続」がポイントですので、株の状態をみながら適時追肥してください。

④ 収穫

9月下旬～10月中旬播種の場合、主枝は1月中旬に収穫適期となり、2月上旬より第二・第三側枝が次々と伸長し収穫適期となります。



標準栽培表参考に
貴地の気候に合わせて
栽培してください。